今月の模範作品

筆ペン

日本の城郭建築 -天守·榜編-

お城の仕組みや魅力について 史料と映像を見ながら解説します

- 日時 11月8日(土)午後1時~3時
- 場所 有楽会館 会議室
- 定員 30名 (参加費無料)
- #師 佐藤宏信氏 (爱知大学名誉教授)

ໜ 犬山市社会教育課 (電話 61-4312)

神本教 金田 育子 =

神奈 金田 育子 文字の大小を工夫し、調 和の取れた布置が素晴らしく、見易い掲示文 となった。字形も美しい。評 黒河内月倫

ボールペン

百尺竿頭一歩を進めて言うならば、 一つのりっぱな条幅作品を残し、一つ の見上げた書簡をものにするには、 その根底として、字学や金石や書 論や詩歌まで、総合的に研究 する必要がないであろうか.

山田ひろ子 凛とした堂々たる書きぶり が見事。柔らかく伸びやかな線が美しく、格調 高い雅さを感じる模範作。 評 荒谷由美子

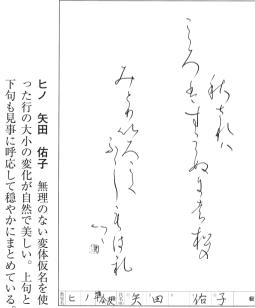
12月提出競書作品の写真版作品は、 12月18日よりホームページに掲載されます。

映 取 原 然後作記鑄 秦本 於不 西 是贏損 繁紫泉集图小"山"田'美惠

を見事に際立たせ、 「泰・本・無・差」が素晴らしい。 原帖に迫まる作品となった。特に 福原

陏 意 題

つけペン



今月の秀逸作品

西宮

濱田

純佳 演

余白の取り方が良

西

宫

(刃

純

佳

きらぬ青苔のいろ

あらはなりまだ凍

T

庭にその回

1

く、文字のバランスも良い。氏名まで丁富

に書けていてすばらしい。(御園生藍珠

有子不

紹

金

和同

奥川雄太郎

安定感のある運筆で堂々たる

和

12

段級 甲

} }

雄

太

郭台

逢

坂

北

中

祐 子

6

五日日

(M

置

有

留

かま

何

用身

後

置

表現が清々しい見応えのある秀逸作。(荒谷由美子)

規定課題・随意課題

)内は選評執筆者です。

三条 化を巧みにつけて、 ず大らかに見せる技量は見事。(森 大箭すみ江 字数が多いにも拘わら 文字の大小や疎密の変 嶺雲

か食べる物をお恵みくだせいませ

藤太郎はひく心を動かされた

台されるなら、宿る所を見つけ、なに

する江

新

ぞうか、ろりたくしをあわれと思

拮 あるま 書 . 車 27 学 程二十 軟と通る。 教 室 17 世 五 百と云う 纪 **段** 氏 全 (楷書) の文明を代表するものは 情 图 11 完容 本 人間 赦 麻 11 8 ない 1/2] 弥 胡

書学 けた。今後も期待したい。 解説を熟読して鍛錬された点に大変感銘を受 岡本 麻弥 線の美しさも確かだが (佐藤

猿 離れた親類 I to 沂 の他人のほ かず類 加西※※ H 朱莉 難しい横書き作品を大らかな運筆で 小田

伸びやかにまとめた。「人」はもう一工夫を。

(黒河内月倫)

流れのよい作品となった。

秋月

室山和佳子

漢字の字形を変え、

より

つけペンの流麗な

付ある一後と /12 香蓮 整秋月

立冬 逢坂 を引き締めている。 北中 麦蒔 P カト 教室・氏名も見事。 清澄な線が美しく、 雨相 しゃさ 除 枯芝 江口 春陽 作品

12 or 8 24700//

道子樣

長崎市は一浦町テー

852 0096

河野良枝

鎌

食市二階堂三了一八

川口 文である。 合わせ持った素晴らしい葉書 書き振り、 . 且つ、 (奈良 孝嬉 読み易さを 手順れた

母校創立七十五周全記念を祝って

用くことっちょうた私も出るしてか 華業生のアマチラな生展を講堂にて

会期は十一月六月十九日写です きすご都合つきましたらご覧でてい

定員 対象 会場 日時 香桜 健康に役号栄養 文。とても の大小に配 曽於市保健企画係 三十名(参加貴無料 市內在 中央保 十一月五 (電話六七二一一三四五) 香桜

伊藤

程の方 (作の方)年後二時 (世) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本	美しい。 綾子
程)会 (日(水)午後三時-四時 (日(水)午後三時-四時	。 (御園生藍珠)。 線の太さや文字
五月伊藤 线子 日	監珠) 表表字

映 其 鋟 垒 差取法 原先 銤 本用 俊 杰 不泰 作 於 基 蒯 撮 鑄就不影 就以縮術

全子八日。武田'靖子

鳗鱼 映其 木差 取 法 **些** 铢 原 先 後春本用 作於不養 能是贏西 鑄就 撮影 以縮術

上宫墨雄 雜 波 祐 見 子

用 俊 杰 本 作能

髮 毎 映 其 木差取法 丝 鉄 原 先 於不泰 是贏掛 鑄就不影 就以缩析

鳗 每 映 其 美取结 鉄 原 先 用 後 杰 本 於不秦 作 是贏撮 鏄 就 不影 就以縮術

『和 紅鳳高清橋"和泉

鳗 迤 映 其

於不

就 不

就以縮術

是贏撮

木

俊

作

饱

鑄

差取法

用

泰

西

影

發 每 映 其 木差取法 丝 O 杂 先 後泰本用 作於不奉 西 色是贏掛 鑄就不影 就以縮術

爱 無 其 木差取法 **丝** 铢 原 用 後泰 泰 竹 於不 西 地 是贏 撮 铸就不影 就以縮析

疑 無 典 其 木差取 往 先 些 銇原 用 俊 泰 本 春 作於不 西 是贏 絕 撮 鑄 就不 就 以縮

水茎会如 举 岸 青 子 聖Y 5 歌颂 か : * 故 '佐 '代 "子 *

量大開入■監"松"田" "菜 "那 ■

髮 無 映 其

鉄 原

黍 本

於不

是贏

就 不

木

俊

作

鑄

差取法

用

杰

函

撮

影

缓 無 账 其 木差取法 鋉 原 丝 A 俊 杰 本 杰 於不 作 西 范 是贏 摄 鑄 就不影 就以縮

爱 無 其 差取法 先 銖 原 用 俊 杰 本 泰 作 旅 不 西 焰 是贏 撮 鑄就不影 就以縮 絍

書秋歌 金子

爱 無 拱 其 木差取法 然 無原先 後秦本用 是贏撮 鑄就不影 就以縮術 『ブラ歌烛』紫 1 2紀 3

就以縮術 すま七風蛭田 恵理 *

缓 無 映 其 差取法 鉄原先 红 A 後 杰 本 於不恭 作 饱 羸 撮 县 鑄 就不影 以縮術

景きし七段点でりと新 社で子 報

 复 要 映 其 木差取法 丝 銇 原 先 用 杰 本 旅系 泰 作 炉 是贏 西 撮 鑄就不影 就以縮

高崎八畦廣瀬美代子

發 無 拱 其 木差取法 先 然鉄原 用 泰本 亦不春 作能 是贏 撮 鑄就不影 就 以縮術

武庫場がアるかくみ

缓 無 拱 其 木差取法 然 銇原 泰本 用 级 於不泰 作 贏 县 摄 鑄就不影 就以縮術

看望歌剧松村"幸"子

おさりつなら、一個る町を見つけなら い食べる物をお恵みくださいませ 藤太郎はひく心を動かされた どうか、あわたくしをあわれと思し か食べる物をお恵みくださいませ 段 無 映 さされるなら、宿る町を見つけない 其 藤太郎はひる心を動かされた。 毎 映 どうかごめわたくしをあわれと思し 其 鏝 安差銖黍於是就以城取原本不贏不以 法 木 木然後作能鑄就 差取 法 先用春 先 鉢 原 俊作 用 本 杰 春 於 不 面 西 饱 贏 是 撮 撮 就 不 鏄 县 景 以 縮 以縮 紆 泉樹六幅坂 倉美弥 藤太郎はなくくのを動かれた。三崎なりとなっ、宿る町を見つけなら、海の町を見つけなら、海の町を見つけなら、海の町を見つけなら、真のできれませる。 差 藤太郎はなく心を動かされた。 後作能鑄 か食べる物をお恵みくだされませ。 行されるなら、宿る所を見つけ、なに どうか、このわたくーをあわれと思し 鍰 毎 映 其 映其 藤太郎はひくいを動かされた。 銤 法 取结 取 木姓後作花鑄就 差 秦於是就以髮 · 原 先用春 原 先 鉄泰 本 Ħ 本不贏不縮 就 不贏 杰 於 西 西 是就以 摄影 不縮 撮 影 木然 型 絣 術 水庫職是二十村 美智 相花七鹭高清冷,往子 どうかこのわたくしをあわれと思し 藤太郎はなく心を動かされた。 か食べる物をお恵みくださいる 石されるなり、宿る町を見つけない 藤太郎はなくべと動かされた か食べる物をお恵みくださいませ どされるなら、宿る町を見つけなら どうかいろわたくしとあわれく思し 鳗 毎 昳 其 一些 胦 其 锓 法 差 取法 木 差 取 木 先 先 然後 鉄泰 原 然 用 用 俊 本不贏 杰 春 作笼鑄 不 作 不 赢 不 於是 西 贏 灯 撮 撮 就 不 鏄 景 影 就 縮 就以縮 發木然後作符鑄就 無差鉄泰於是就以 映取原本不贏不統 か食べる物をお恵みくだせいませ。 るされらなら、宿る一時を見つけ、なに 藤太郎はなく心を動かれた どうか、めわたくしをあわれと思し か食べる物をお恵みくださいませ ささりるなら、宿る所を見つけない 藤太郎はひかん心を動かれれた – 差 どうかこのりたくしをあわれる思し 映 其 鏝 木然後作能鑄就 法 木然後作笼鑄就 取原本不贏 先 鉄泰於是就 H 泰西撮 不縮 景 影 縮

以

桁

大井八雕"石"田"あ"的

有

3 用 子

留

重

掏

3

7

留 渔

置金

何

闸

何 有

身 不

後

置金

何有

用子

身 不

後 留 置金

留

古谷

题塩野三千征 2

石庭にその回のない あらはなりまだ凍る きられ青台のいろ

か食べる物をお恵みくださいませ さされるなら、宿る所を見つけない どうかいのわたくしをあわれと思し 藤太郎はひへ心を動かれたた

藤太郎はひと心を動かれた か食べる物をお恵みくだととませ おとれるなら、宿る町を見つけ、なに どうか、あわたくしをあわれと思し

藤太郎はひくべを動かれれた か食べる物をお恵みくださいませ るされるなら、宿る町を見つけない どうかいろわたくしをあわれと思し

きらぬ青岩のいろ あらはなりまだ凍 石庭に冬の日のナー 4

か食べる物をお恵みくださいませ 当されるなら、宿る町を見つけ、なに 藤太郎はなる心を動かされた。 どうか、ろりたくしをあわれと思し 藤太郎はひるでき動かすれた。 か食べる物をお恵みくださいませ、 おされるなら、宿る一般を見つけ、なに どうか、あわたくしをあわれと思し

どうかいのわたくしをあわれと思し世

とされるなり、宿る町を見つけない か食べる物をお恵みくださいませ

藤太郎はひとかと動かれれた。

おされるなり、宿る所を見つけ、なに 藤太郎はびへ心を動かされた か食べる物をお恵みくだされませ どうかこのわたくしをあわれと思し

仙水 题筋野 石香 何有 何 有 子 闸 用 3 7-身 不 身 後留 留 沒 置金 置金

あらはなりまだ凍み 石庭に冬の目の十 きらぬ青若のいろ

何 有 何 有 3 子 用 7 身 不 後 留 留 置 金 金

1/2 さらぬ青苔のいろ あらはなりまだ凍み 庭にかの目のさし 藤太郎はびる心を動かされた。 か食べる物をお恵みくださいませ さされるなら、宿る所を見つけない どうからのわたくしをあわれと思し

今月の優秀作品

· 大橋修子 D

淩

置

詰めて轟と通る·情け容赦はない。 あるまい。何百と云う人間を同じ箱へ汽車程二十世紀の文明を代表するものは

千南《五日及日本彩音

園

数率 提定基礎名前首

我

县3

挑

羽

W

12

134

井

里光

公律※四回職野村京子子はおります、何百と云う人間を同じ箱へた車程二十世纪の久明を代表するものは

三国《『三■『大田孝子』はおて乗と通る。情け容赦はない、あうまい。何百と云う人間を同じ箱へ流車程二十世纪の文明を代表するものは

光輝 ** 二 ** 村井由住 ** 古めて車と通る情け容赦はない。あるまい。何百と云う人間を同じ箱へあるまい。何百と云う人間を同じ箱へ流車程三十世紀の文明を代表するものは

汽車程 拮 あるまい 27 雲 韓と通る。 ルニナ 数軍 二 股名本科 何面と云う人間を同じ 世 纪 いの女 情け容赦はない H w] そ代表するも デ 3 稻 のは

真 11:1 初 11:1 伏島三栄子 11:1 おうまい、何百と云う人間を同じ箱へあすまい、何百と云う人間を同じ箱へ汽車程二十世紀の文明を代表するものは

話めて轟と通る。情け容赦はない。 あうまい、何面と云う人間を同じ箱へ汽車程二十世紀の久明を代表するものは

汽 はめて。轉と通る。 あるまい。 香 車程 港 二十世 何有と云う人間を同じ 段氏衛 紀の女明 情け容赦はない 向 を代 # 美 表するものは 紀 箱

KT ** 三 R | 国でま紀 。 おかて難と通る。情け容赦はない。 あうまい。何百と云う人間を同じ組へあるまい。何百と云う人間を同じ組へ

一宮の一人の変形を行るない、おうまい、何百と云う人間を同じ箱へあっまい、何百と云う人間を同じ箱への乗程二十世紀の文明を代表するものは

あるまい。 杁 車 めて東軸と通る。情 程二十世 俪 初 面と云う人間を同じ 纪 **股** 氏 名 (福書) の文明を代表するものは 高 け容赦 須 11 智

香月**初*編齊藤彩

it めて轉と通る情け容赦けない. あるまい。何百と云う人間を同じ箱へ

詰めて車 あるまい 車 葉 程 二十世纪の文明を代表するものは と通る 何有と云う人間を同じ 120 段 氏 全 (報告) 坂 情け容赦はない。 本 34 美 箱

大補の書と通ら、情け容赦はない。あるまい、何百と云う人間を同じ箱へあるまい、何百と云う人間を同じ箱へ

千日 ** 二 □ 田中泉 はめて轟と通る。情け容赦はない。 好すまい。 何百と云う人間を同じ箱へあるまい。 何百と云う人間を同じ箱へ

\$ 3 汽 そ 洁 .車 めて韓と通る Ġ # ... 程二十 何百と云う人間 世 初 紀の **股** 氏 名 (報書) 情け容赦はない 女卵を代 松 本 美 表する を同じ 鈴 ŧ 絹 のは

湖南 ** 初 * 小阪恵里
該めて轟と通る、情け容赦はない、
あるまい、何百と云う人間を同じ箱へ

遠く離れた親類よりも近くの他人のほうが頼りになる。 玄峰*** 『週日逸なるみ 2*

遠く離れた親類よりも近くの他人のほうが頼りになる。 い*** *** *** *** *** *** *** *** ***

遠く離れた親類よりも近く の他人のほうが頼りになる。 福岡 *** * 着元信子 /**

遠く離れた親類よりも近く の他人のほうが頼りになる。 桃 *** ***** 大出和紀 /**

遠く離れた親類よりも近くの他人のほうが頼りになる。 五椿 ** 電話 玉寄美雪 / *

速く離れた親類よりも近くの他人のほうが頼りになる。 そら*** *** 中村幸子」1

遠く離れた親類よりも近くの他人のほうが頼りになる。 双葉*** 図版 国崎なな 2**

力 -久 麦 P 一样 カト 原 霜 え 除 子 to 枯

立久、麦 t 菩 5 石 h 稻相 珠 除 惠 + 枯

書学 立 力 R 麦 P **股** 氏 名 (楷書) 蔣 吉 カト 眀 枯 7 芝

霜 除

立 力 <u>ķ</u> 麦蒔 荻 か、 原陽 霜 除 to 枯

立 力 美 水 麦 辞 カ、 和相 野 K 除 登 p 枯 さ

立 力 宫 冬麦 蔣 霜 井 しゃ 除 奈 t 枯 6 芝

立 力 冬 麦蒔 カヽ 井孝 霜 んしゃさ 除 枯 ゼ

千日 立 力 冬 麦蒔 T カ、 霜 内 L 敦子 除 L ŕ 枯 芝

立冬 力 葉 }-麦蒔 段 氏 名 (情書) P 南 霜 除 枯 芝

遠く離れた親類よりも近く の他人のほうが頼りになる。 美奈子 大唐

遠く離れた親類よりも近く の他人のほうが頼りになる。 草香 # 錠早苗

·袁く爵隼朳た親類よりも近く の他人のほうが頼りになる。 藤聡子

遠く離れた親類よりも近く の他人のほうが頼りになる。 南草※※ 聚 完 名 鋤本尚

遠く離れた親類よりも近く の他人のほうが頼りになる 叁 5 瞬 新文之 ** # **** 竹田櫻香

遠く離れた親類よりも近く の他人のほうが頼りになる ■遭地曳 由备 5 **

遠 く離れた親類よりも近く のぬ人のほうが頼りになる。 F12 西田明子 5 **

遠く離れた親類よりも近く の他人のほうが頼りになる。 ■塩木さおり

遠く離れた親類よりも近く の他人のほうが頼りになる。 里

力

1

P

カト

W

P

+

立

R.

麦

薛

稻

除

枯

芝

冬

麦蒔

霜

除

枯

芝

立冬麦時

雨相

除

枯

芝

力

1

P

カト 田

N

H

さ

力

Ly

カト

しやさ

き東

段 氏 名 (楷書)

村

佳

木月

团

中丸久江

9

櫻

珳

股 氏 2 (指律)

河

原

和

子

10

1 力 書学* 麦 7 **段** 氏 名 群 佐 藤 霜 4 しゃさ 除 佳 3 枯 芝 7

若 立 力 × & 松 麦蒔 段 氏 名 ^(他書) T 羽 カト 酒相 田 N 野 除 幸 や 枝 枯 ナ 8 芝

立冬

麦蒔

霜

除

枯

せえ

石鴉

段 氏 名 (標準)

純

子

Ù

麦蒔

稻

除

枯

芝

立冬

麦

蔣

霜

除

枯

芝

P

カへ

やさ

力

7

カヽ

6

100

Z

紫草

片

康

豆

9

青都 力

段 氏 全 (相告)

徳

团

佳

惠

9

力

T

カト 林

h

しゃ

ナ

豊 力 立 中 麦 段 氏 名 (新書) P 蔣 秦 カト 霜 6 由 除 依 ť 枯 7 芝

力 ì 南崎 冬 麦蒔 **段** 氏 名 掘 雨相 U N 制 除 3 枯 8 芝

立冬

麦

蒔

霜

除

枯

芝

7 級 出品等 をはる

万葉 力 立 R V 麦蒔 P 段 氏 名 (樹書) 中 かんし 沢 霜 美 除 紀 子 しゃとご 枯 8 芝

力 立 永 レア **股** 氏 名 (指書) りい 横 山美和 利相 h しゃ 除

111

出

伊藤

V

枯艾

t

力

1

アか

K

しゃさ

岳 級 出品をはる

立冬 カト 律 麦蒔 T 氏 年 (報書) 团 り ` 中 稻 真由 除)や
と
、 美 枯 9 芝

立冬麦蒔 霜 L しや 除 7 枯 芝

RT **段** 氏 名 (楷書) 宮 城 穂 波 10

力 英 立冬 花 -麦酶 T 光光 かゝ 稻 永 6 除 美 枯 穂 ゼス 10

沪 冬麦荫 霜 除 枯 芝

幸 力 レア 段 氏 3 石川 美奈江 カ、

立

麦蒔

雨相

除

枯芝

力

7

カ

文

座

脂

叔

3

今月の優秀作品

摩訶般若波羅蜜多心經

起觀有觀 念世緣世 音佛音延 心童子靈位證大菩提也 白萬卷寫經發願成就 不善法南命 離念僧無十 心觀緣佛句 世常与觀 安森 音楽佛音 香菜子数寫 念我有 経 念净因 從朝与 心念佛

起觀有觀

念世緣世 念音佛音延

不慕法南命

離念僧無十

心觀緣佛句

世常与觀

音楽佛音

念我有经

念净因

従朝与 心念佛

起觀有觀

不暮法南

離念僧無

心觀縁佛

世常 与觀

念

楽佛 音

念净因

従朝与 心念佛

起觀有觀

句

音

经

縁世 世 音佛音延

爲

平

穏

無

事

体

全

山萬卷寫經發願成就 健

池

田 説

黻

池田 子

昊可 寫

耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至 異色色即是空空即是色受想行誠亦複如縊皆空度一切苦厄合利子色不異空空不 亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无 无意識易无无明亦无无明盡乃至无老死 想究竟涅縣三世諸佛依般若波羅蜜多故 得故苦提薩遠依般若波羅麼多故心无 增不减是故空中无色无受想行識无眼 舎利子是諸法空相不生不滅不垢不净 无里破故 无有恐怖速離一切顛倒夢

自在甚謹行深般若波羅蜜多時照見五 訶般若波羅蜜多心

澤 佳澄

耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至不增不減是故空中无色无受想行識无眼是會利子是諸法空相不生不滅不垢不淨異色色即是空空即是色受想行識与沒如 想究竟沒縣三世諸佛依般若波羅蜜多故 无 蕴皆空度一切岩厄舎利子色不異空空不 得故菩提薩強依般若波羅蜜多故心无 无老死盡无告集滅道无智只无得以无 意識界无无明与无无明盡乃至无老死 自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見 九里殿故无有恐怖遠離一切顛倒

異色色即是空空即是色受想行識亦復蘊皆空度一切岩厄舎利子色不異空空

蘊皆空度一切苦尼舎利子色不異空空不 親自在菩薩行深般若波羅塞多時既見摩訶般若波羅塞多心経

治舟

自在菩薩行深般若河般若波羅蜜多心 般若波羅蜜多時照見

所得故菩提薩塩依般若波羅塞多故心无亦无老死盡无苦集滅道无智亦元得以无 一殿故无有恐怖遠離一切顛倒夢

无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死 耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至 不增不減是故空中无色无受想行識无眼 是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不净 異色色即是空空即是色受想行識亦復

田辺

想究竟涅縣三世諸佛依般若波羅盛多故

上殿 无里

熊谷ひろみ

觀自在菩薩行深般若皮摩訶般若波羅蜜多心經 耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至 无意識界无无明点无无明盡乃至无老死 異色色即是空空即是色受想行識点復 想究竟涅 |碳无里礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢 无老死盡无告集滅道无智与无得以无 增不減是故空中无色无受想行識无眼 舎利子是諸法空相不生不滅不垢不净 皆空度一切者尼舎利子色不異空空不 自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見 佛依般若波羅蜜多故

木

顯倒夢

松田しの

想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多女 觀自在菩薩行深般若波摩訶般若波羅蜜多心經 亦無老死盡無苦集減道無智亦無得以無 無意識界無無明亦無無明盡乃至無老死 耳鼻舌身意無色聲香味觸法無眼界乃至 是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨 異色色即是空空即是色受想行識 總皆空度一切苦厄舍利子色不異空空 所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心 不增不減是故空中無色無受想行識無眼 一破無軍礙故無有恐怖遠離一切 自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五 亦復

宇野

下川

— 子

宇野

かおる

教寫

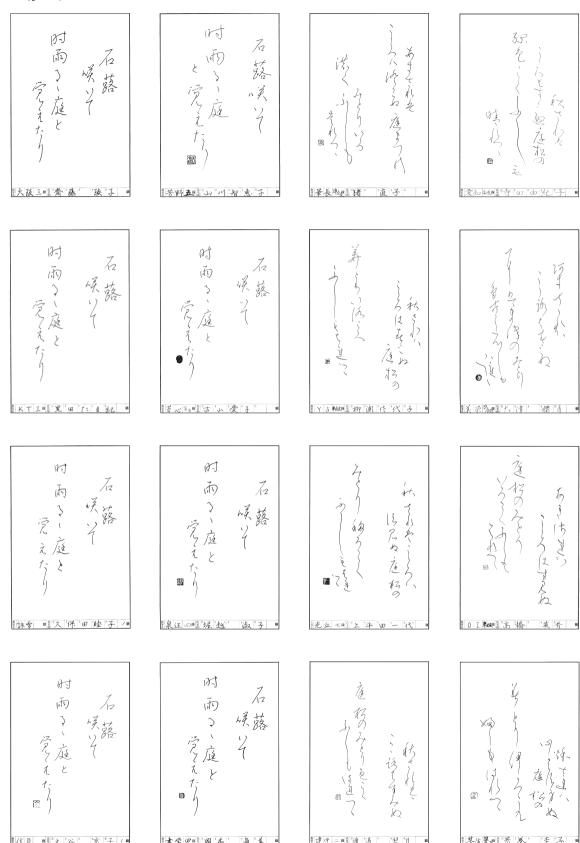
安森香菜子

	為	念世緣世
		念音佛音延
	15	不暮法南命
	願	雜念僧無十
	成	心觀緣佛句
下	就	世常与觀
州		音楽佛音
3		念我有経
故		念译因
900		従朝与
<u></u>		心念佛

和泉

聖凝 蘊皆重度一切当尼舎利子色不異室宣不 觀自在菩薩行深般若上摩訶般若波羅蜜多心經 不增不減是故空中无色无受想行識无眼 是舎利子是諸法空想不生不威不垢不净 異色色即是空四是色受想行誠么沒 立无老死盡无告集滅道无智也无得以无 无意識界无无明之无无明盡乃至无老死 耳鼻古身意无色聲香味觸法无眼界乃至 想究竟涅解三世 所得故菩提薩強依般若波羅審多故心无 自在菩薩行深般若被羅塞多時則見 无里破故无有恐怖遠 諸佛依般若波羅蜜多 離一切 顛倒夢

无意識界无无明太无无明盡乃至元老死不增不減是故空中无色元受趣行識无眼界乃至耳鼻古身意无色馨香味觸法无眼界乃至天意就不成之後替法空相不生不減不垢不淨具色色即是空空即是色受想行識私復如 聖礙无聖礙故无有恐怖遠離 所得故菩提養極依般若波羅元光 集滅道元知 異色色即是空空即是色受想行識二複蘊暗空度一切岩尼含利子色不異空空觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見 摩訶般若波羅蜜多心 以縣三世 諸佛依般若波羅蜜多故 经 以羅蜜多故心无 離一切顛倒夢







H本の城郭建築-天守·橋編-お城の仕組みや魅力について史料と

映像を見ながら解説します

日 時 11月8日(土)午後1時~3時 場 所 有楽会館 会議室

定 員 30名 (参加費無料)

講師 佐藤宏信氏 (爱知大学名誉教授)

毗不 大山市社会教育課 (電話 61-4312)

「佐世歌」には「10 SI ·

日本の城郭建築 — 天宇·槽編-

お城の仕組みや魅力について史料と 映像を見ながら解説します

日時 11月8日(土)午後1時~3時

場所 有楽会館 会議室

30名 (参加資無料)

佐藤宏信氏(愛炒学経数授)

犬山市社会教育課 (電話 61-4312)

[水仏郷の] 原 田 た か 子 。

松田しのぶ

原田たか子

対象 定員 会場 ~食 健康に役马栄養成分表示にいて学びます~ 知って得する食品表示~ (電話六七二一一三四五)曾於市保健企画係 Ξ 市内在住の方 中 十一月五日(水)午後二時~四時 十名(参加貴無 央保健 習 会 [高岭三峰吉田亭子 | 1



市内在住の方中央保健所

十一月五日

(水)午後二時~四時

曹於市保健企画係 三十名(参加貴

料

(電話 六七二— 一三四



峯

愛

日本の城郭建築-天守・櫓編-

お城の仕組みや魅力について史料と 映像を見ながら解説します

日時 11月8日(土) 午後1時~3時

有樂会館 会議室

30名 (糸加漿無料) 定員 誰師 A左 藏安信氏(愛知大学A举教授)

申込み 犬山市社会教育課 (電話 61-4312)

1セン、明行対美惠子。

日本の城郭建築 - 天守·櫓編

お城の仕組みや 魅力について 史料と映像を見ながら解説します

日時 11月8日(土)

午後1時~3時 場所 有楽会館 会議室

定員 30名(参加費無料) 講師 佐藤宏信氏

(爱知大学 名誉教授) 軽み 犬山市 社会教育課

(電話 61-4312)

皇水茶柳柳皇は 野ひろか 田

吉田 容子

食

小林留美子

彩音 江森

健康に役う栄養成分表示につて学びます) 知って得する 食品表 示~

田中三重子

5食

育

羽

竹村美恵子

佐野ひろみ

日本の城郭建築 -天守·橹編 お城の仕組みや魅力について史料 と映像を見ながら解説します

日時 11月8日 (土) 午後1時~3時

場所 有架会館 会議室

皮貝 30名 (参加費無料)

講師 佐藤宏信氏(愛知大学名誉教授) #亞 大山市社会教育課 (電話 61-4312)

1年 六明版本記号 。

坂本 悦子

日本の城郭建築 -天宇·櫓編-

お城の仕組みや魅力について 史料と映像を見かがら解説し対

日時 11月8日 (土)

午後1時~3時 有樂会館 会議室

30名(参加黄無料) 佐藤宏信氏(愛知学経教授) 单込み 犬山市社会教育課

(電話 61-4312)

NHX 盖井利代子。

荒井利代子

健康に役立つ栄養成分表示について学びます 人知って得する 食品表示 一 三十名〈参加貴 無 中 + 育 (電話六七二一 内在住の 一月五日(水)午後二時 保健 講 習 所 方 画料 四係 五

六

(電話六七二一一三四五)





華長四月田中三重子。



後藤 祐加

健康に役う栄養成分表示につて学びますり知って得する食品表示~ 市内在 三十名(参加貴無料) 十一月五日(水)午後二時~四時 央保 於市保健企画 (電話 六七二—一三四於市保健企画係 講 住の方 健 習 五 泉汪四日堤越 淑子日

堀越 淑子

日本の城郭建築 -天守·櫓編-

お城の仕組みや魅力について 史料と映像を見ながら解説します

日時 11月8日(土) 午後1時~3時

場所 有楽会館 会議室 定員3()名(参加費無料)

講師 佐藤宏信氏(愛知大学智歌兼) **申込み 犬山市社会教育課**

> (電話 61-4312) 吉学柳 细川 美帆。

> > 細川

美帆

日本の城郭建築 -天守·櫓編-

お城の仕組みや魅力について史料と映像を

日時 11月8日(土) 午後1時~3時

場所 有楽会館 会議室

定月 30名(参加費無料)

端師 佐藤宏信氏 (爱知大学名誉教授)

₩ 犬山市社会教育課 (電話 61-4312)

张山縣 山崎 智子。

山﨑 智子



8520096

8520096